

2020年7-9月期（2次速報）GDP予測について

フェロー チーフエコノミスト 小玉 祐一
政策・経済研究部 前田 和孝

1. 法人企業統計の結果を踏まえ、下方修正を見込む

内閣府から12月8日に発表予定の2020年7-9月期実質GDP成長率（2次速報）は、前期比+4.9%（年率換算：+21.0%）と、1次速報の同+5.0%（年率換算：+21.4%）から小幅下方修正されると予想する。

本日発表された7-9月期の法人企業統計の設備投資（除くソフトウェア）が前年比▲11.6%、季節調整済前期比ベースで▲1.2%となったことを受け、民間設備投資は、1次速報の同▲3.4%から同▲3.9%へと下方修正されると予想する。一方、公的固定資本形成は、1次速報と同様の同+0.4%、在庫投資の成長率に対する寄与度についても、▲0.2%ポイントから変わらないとみる。

なお、今回の2次速報より、2015年基準改定を取り込んだ2019年度国民経済計算年次推計が反映される。結果次第では、ベースとなる過去の数値が大きく改定される可能性がある点には注意が必要である。

2. 10-12月期以降の景気回復ペースは緩慢

7-9月期の実質GDP成長率は、過去最大の落ち込みとなった4-6月期からのリバウンドという性格が強い。足元では、すでにpentアップデマンドや特別定額給付金の効果が一巡しつつあるのに加え、コロナ感染も再び拡大基調をたどっている。Go To Travel キャンペーン、Go To eat キャンペーンの対象外になる自治体も増えてきており、政策効果への期待も薄れ始めている。

このような状況下、10-12月期以降の個人消費は停滞気味の推移になるとみる。感染症への先行き不透明感から、企業の設備投資意欲も容易に上向かないと考えられる。ワクチン開発が大方の予想以上に進んでいるのは朗報だが、十分な供給量の確保には時間がかかるとされており、景気への効果も不確実性が高い。今後の景気回復ペースは、緩慢なものとなる可能性が高い。

実質GDP成長率予測

(前期比: %)	19/12	20/3	20/6	20/9 (1次QE)	→予測	
					20/9 (2次QE)	寄与度
実質GDP	-1.8	-0.6	-8.2	5.0	4.9	—
前期比年率	-7.1	-2.3	-28.8	21.4	21.0	—
民間最終消費支出	-2.9	-0.7	-8.1	4.7	4.7	2.6
民間住宅投資	-2.3	-4.0	-0.5	-7.9	-7.9	-0.3
民間設備投資	-4.8	1.7	-4.5	-3.4	-3.9	-0.6
政府最終消費支出	0.3	0.0	-0.4	2.2	2.2	0.5
公的固定資本形成	0.7	-0.3	1.2	0.4	0.4	0.0
民間在庫品増加(寄与度)	0.0	-0.1	0.3	-0.2	—	-0.2
純輸出(寄与度)	0.5	-0.2	-3.3	2.9	—	2.9
財貨・サービスの輸出	0.4	-5.3	-17.4	7.0	7.0	1.1
財貨・サービスの輸入	-2.4	-4.1	2.2	-9.8	-9.8	1.8
内需(寄与度)	-2.3	-0.3	-4.9	2.1	—	2.0
名目GDP	-1.5	-0.4	-7.8	5.2	5.2	—
前期比年率	-5.7	-1.7	-27.7	22.7	22.3	—
GDPデフレーター(前年同期比)	1.2	0.9	1.4	1.1	1.1	—

(出所)明治安田総合研究所作成

※本レポートは、明治安田総合研究所が情報提供資料として作成したものであり、いかなる契約の締結や解約を目的としたものではありません。掲載内容について細心の注意を払っていますが、これによりその情報に関する信頼性、正確性、完全性などについて保証するものではありません。掲載された情報を用いた結果生じた直接的、間接的トラブルや損失、損害については、一切の責任を負いません。またこれらの情報は、予告なく掲載を変更、中断、中止することがあります。

●照会先●

株式会社 明治安田総合研究所

〒102-0073 東京都千代田区九段北 3-2-11 TEL03-6261-6411